◆札幌支部から奥尻町の子供たちへピアノや電話のサンタメッセージなど沢山のプレゼント

当協会の札幌支部（支部会長浪花正雄氏，実行委員長石川越章氏）は，本部に日本テレコムの協賛を紹介されるなど，当協会発展の為活躍していることで知られるが，昨暮，奥尻島の子供たちに，電話によるサンタさんの贈もの，そしてチャリティコンサートの収益金で，電子ピアノ15台を贈るなど，心の贈物を実践し大きな話題を提供した。

下・右・右下の新聞記事をお読み頂きたい。

◆北海道奥尻町教育委員会　青幹彦教育長より

謹啓　1994年の新春を迎え，各位にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて，昨年7月12日に発成しました北海道南西沖地震災害に当り，過分なご厚志，さらには心温まる激励文や物資等を賜わり心から感謝申し上げます。―中略―町内小・中学校の現状は，一校はプレハブの仮校舎，一校は他校に間借りをしての学校生活を送っており―中略―この度のヤマハエレクトロニックピアノ5台の寄贈，誠にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

平成6年1月19日

北海道新聞（平成6年）1月

この人

楽器を贈ってホッと

知り合いだった同島の教師に被災の惨状を聞いたのがコンサート開催のきっかけ。「何か自分たちでできることはないのか」。演奏家らに呼びかけると多くの賛同が得られた。「演奏してくれた人たちに支払ったのは交通費程度で，ほとんどプロギャラ。奥尻支援の気持ちがひとつになって開催までこぎ着けることができた」と話す。

楽器の演奏はしないが，クラシック音楽の大ファン。「音楽は心を和ませてくれます。音楽によって奥尻島の子供たちが少しでも元気になってくれれば」と願っている。

「無事，お金が集まってホッとしました」と話すのは全日本ピアノ指導者協会の道支部長の石川越章さん（三九）。北海道南西沖地震で被害に遭った奥尻島の小，中学校に楽器を贈るチャリティーコンサートを先月二十五日に札幌で開催し，エレクトロニックピアノ五台を寄贈した。

日刊スポーツ

平成5年（1993年）12月20日（月）

フィンランドのサンタが電話でメリークリスマス

全日本ピアノ指導者協会が奥尻の子供のために

フィンランド政府公認サンタクロースのメッセージが電話で聞ける！（社）全日本ピアノ指導者協会北海道支部では24、25日、北海道南西沖地震の被災地、奥尻の子供たちにコンピュータ1電話を使ってサンタクロースのメッセージを届ける（同時通訳付き）・同協会がフィンランド公認ペイキ・マルティカネン氏（37）に特別依頼したもので、奥尻島へのお見舞いの言葉を含め1分30～40秒の内容となっている。

また、同協会では25日、札幌・かでる27でクリスマスチャリティーコンサートを開催する。チェンバロの大宮理、ハープの小笠原直子ら8人の一流アーチストが参加。午後4時開演、1部2部構成で4時間ほどに及ぶ。収益金は楽器に替えて、奥尻の子供たちにプレゼントする。

このチケット（一般2000円、学生1500円）は市内プレイガイドで扱っているが、申し込みを電話で行う場合にはサンタクロースのメッセージが聞ける。チケット申し込みは☎011（5522）0441（24時間）・問い合わせは同協会＝☎011（513）0792＝まで。

◆東京支部教材研究会の「音出し会」と忘年会盛大に開かる

ピアノ指導者も，ピアノ演奏を楽しみましょうという意図のもと，例年「音出し会」を開催しているが，今年度も12月9日㈭17人のメンバーが出演。会終了後，忘年会で94年の発展を期した。**右写真参照**

北海道新聞　1994年（平成6年）1月19日（水曜日）

音楽会

アンドレイ・ピサレフ・ピアノ・リサイタル

ピサレフ＝写真＝は怖いもの知らずの客気に満ちあふれた近頃稀（まれ）な青年である。一九六一年ロシアの生まれ。今回が四回目の来道になるよし。

当地では珍しく定刻開演の第一曲目は、ベートーベンが三十二曲書いたピアノソナタの最後。

この作品ハ短調。技術水準が極度に高くなっている今日でも、目立つ存在といえるソナタ第三楽章アルゴで示した過不足のない情感に裏打ちされた深味のある音が、でく近い将来の飛躍を示唆している。

客席の中央から下手寄りに聴衆が偏って座席を選ぶのは、ピアノ学習者が多いせいだろうが、ピアノという楽器の音は上手の方がマトモな場合が多いということを体験してほしいものだ。（谷口　静司・音楽評論家）

◇17日、札幌サンプラザホール

テクニシャンである。続く性に配慮するよりは、〝本来〟自分が目指す音楽を直球多用の剛速球で勝利しようとするからかも知れない。

強音がかなり粗削りで響き調整不足のデジタル音響的に聴き手を戸惑うのは、今後の改善すべき最重要課題だろう。だが今回でいう〝表現ポロネーズ〟。全一曲まったく破綻（たん）がなく、この腕達者にさわ

ラフマニノフの練習曲集〝音の絵〟の作品三十九の方から第五、六、八、九番。休憩を挟んでショパンの最後の、といっても全三曲だが、これまた難技巧を要するソナタ・ロ短調。そして同じくショパンの〝子守歌〟と〝英雄ポロネーズ〟。全一曲まったく破綻（たん）がなく、この腕達者にさわ章の主題と二部の変奏曲、そして特にショパンのソナタ第三